

農学生命科学研究科・農学部 在学生のみなさんへ

日本での新型コロナウイルス感染症の感染拡大をうけ、感染防止対策への取り組みを開始してから1年以上が経過しました。この間、農学生命科学研究科・農学部においても、感染症への対策を講じながら、変化する状況に応じ、可能な限り対面による実験・実習を取り入れた教育活動の実施に取り組んでまいりましたが、学生の皆さんが思い描いていたような学生生活から遠い状況であったかもしれません。

昨年度からの対策をさらに組織的に行うため、2021年5月に「研究科感染対応タスクフォース」を設置し、コロナ禍の変化に合わせ万全な体制で教育・研究活動を行っていたけるよう整備いたしました。このタスクフォースでは、例えば、対面授業の実施に当たり、クラスターを発生させないこと、いち早く機動的に対策が講じられること、プライバシーの保護などを目的とし、授業を担当する先生方から、事前のシミュレーションを十分に行っていただいたうえで、感染対策を徹底した詳細な実習計画を提出していただき確認・承認等を行っています。また今後は、ワクチン接種が進むなどの状況にあわせ、オンラインや対面授業等を効果的に組み合わせてより高い教育効果を得られる取組を実践していきます。

昨年度以来、学生のみなさんは、思う存分教育・研究活動を行えなかったり、学生生活における友人や研究室の仲間とのコミュニケーションが制限されたりなど、さまざまな不自由を経験することとなりました。日々の不安や困難に耐え、オンライン授業や自粛といった慣れない状況の中でも高いモチベーションを維持し続け、粘り強く学修・研究を続けてこられたことに敬意を表します。ウイズコロナの生活はまだしばらく続くことが予測されます。学生のみなさんには、この後もくじけることなく学び続けていって欲しいと願っています。

農学生命科学研究科・農学部では、学生のみなさんの心身の健康を第一に考え、研究科構成員全員で協働して対策を進めます。みなさんが望む学修や研究が効果的に行われ、充実した学生生活をおくれるように、その支援に最善を尽くしてまいります。学生のみなさんには、感染防止対策の徹底に引き続きのご協力をお願いします。また、図らずも感染してしまった方やその周囲の方々に対しては、共感と尊重の意識を持ち、その方たちのプライバシーの保護と人権への配慮をお願いします。

2021年6月

大学院農学生命科学研究科長・農学部長

堤 伸 浩